

# J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION

東日本大震災復興支援  
第67回国民体育大会 セーリング競技  
主催 公益財団法人日本体育協会・文部科学省・岐阜県・公益財団法人日本





みんなに伝えたい。  
オレオのおいしい食べ方、TSD!!



**TWIST**  
回して  
はずす!



**SCOOP**  
クリームを  
すくって!



**DUNK**  
牛乳に  
浸します!



**NEW** チョコレート  
クリーム



# JSAFからのメッセージ

## 若手セーラーたちに元気を

昨年の東日本大震災で、JSAFは日本体育協会やJOCに加盟するスポーツ団体の中で最も大きな被害を受けた団体のひとつでしょう。

全国のセーラーからの支援により、被災地のセーラーたちがインターハイ、インカレ、そして国体に参加できたことを喜んでいきます。今夏には、東北ユースから選抜された高校生6名がサンフランシスコを訪問し、米国のセーラーたちと交流してきました。昨年から今年にかけていろいろな大会に参加した若手セーラーたちの笑顔が、何よりも我々を元気にしてくれました。

JSAFでは、ここ2年余りユース世代の制式艇種について議論してきました。千葉国体でのアンケート調査、全国指導者が参加する講習会での討議、高体連との話し合い、都道府県連の意向調査などを踏まえ、420級とレーザー級を採用することになりました。厳しい経済状況のもと、制式艇種の普及のためJSAFおよび都道府県連、さらに420級やレーザー級など艇種別協会が協力し、艇を揃えレースを開催することになりました。現在2015年までに420級を100艇、購入することを目標にしています。JSAFホームページに「高校生に420を！」として募金をお願いしております。(詳細は11ページ)

JSAFユースワールドでは420級が採用されており、昨年の大会では日本の高校生が銀メダルを獲得しています。JSAFとしてインターハイ、国体、国際レースの艇種を統一し、長期戦略に基づき一貫指導体制を確立していきたいと考えています。

オリンピック選手強化も含めたグローバルな艇種採用、少子高齢化で減少するユース世代のサポート、インターハイや国体の活性化など、ユースをはじめとする若手セーラーたちに夢を与え、元気になってもらいたいと願っています。

若手セーラーたちの元気が、将来のセーリング界の隆盛につながって行きます。会員の皆様方にはご支援、ご協力をたまわりたく、よろしくお願い申し上げます。

## JSAFのメンバーになれば

- ・メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ・会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ・JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。(高校・ジュニアを除く)
- ・各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ・「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>

# 佐賀県が 天皇杯獲得!! 皇后杯は 地元岐阜県!



東日本大震災復興支援 第 67 回国民体育大会セーリング競技会  
2012年 10月 4日～ 7日、愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバー

「輝け はばたけ だれもが主役」、「心をひとつに 日本再生」を合言葉に、  
第 67 回国民体育大会セーリング競技会が 10 月 4 日～ 7 日にかけて行われた。  
「ぎふ清流国体」ではあるが、セーリング競技は唯一県外開催として、  
愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバーで開催することとなった。参加状況は監督・選手 567 名、参加艇数 343 艇であった。

レポート／森信和 (JSAF 国体委員会副委員長) 写真／濱谷幸江

## 成年男子 470 級



1位 福岡 土居／外園



## 成年男子 国体シングルハンダー級



1位 愛知 永井久規



## 成年男子 国体ウインドサーフィン級



1位 岐阜 金子岳司



### 様々な改革を試みる

今回の「ぎふ清流国体セーリング競技」は岐阜県ヨット連盟と愛知県ヨット連盟が共同して準備が進められた。昨年の山口国体同様、東北三県の支援の一環として、チャーター艇の準備、支援募金などの復興支援に力を合わせることできた。

また、今回は国体の様々な改革を試みたが、大会組織の統合、競技役員削減、全艇種の事前計測、レース後のピックアップ計測、海上自衛隊の支援をやめ自前による救助体制の確立など、今までにない国体の簡素化が行われた。

さらに「見える国体・見える国体」としてB海面のフィニッシュは、陸上から選手が見える位置に設置された。この結果、陸にいる観客からも声援が飛び、選手と観客が一体となった演出がなされ、大盛況だった。

### 台風17号の直撃

大型で強い台風17号が海陽ヨットハーバーを直撃した。9月30日夜から10月1日の早朝にかけ愛知県東部に上陸した台風は、最大風速35m、時速45kmの速さで襲い、その後、関東に向け通過した。

岐阜県実行委員会は台風への対応に追われる忙しいスタートとなったが、大会会場に被害はほとんどなかった。いったん撤収した会場のテントや桟橋を10月2日に再びセットし直し、大会開催の準備に備えた。関係者もホッとした。

### 計測

計測については、計測のポイント及びクラスルールポリシーを重視し、シングルハンドのシーホッパー級及びSR級はアンカー、パドルの搭載を義務づける旨を、各選手団に事前に文章で周知した。

10月2日の朝、各都道府県の計測の順

**成年女子  
セーリングスピリッツ級**



1位 岡山 吉迫／大熊



**成年女子  
国体ウインドサーフィン級**



1位 岐阜 小嶺恵美



**成年女子  
シーホッパー級スモールリグ**



1位 東京 富部柚三子



番をくじ引きで決定した。くじを引くたびに各都道府県から歓声が上がった。

470級、ウインドサーフィン級については計測場で実施したが、SS級、シーホッパー級やSR級については計測員が各都道府県のベースに向く出張計測方式で行ったため、計測場所の削減、計測時間の短縮が図られた。

今大会はウインドサーフィン級も含め事前の全艇計測が実施され、さらにレース後の上位艇についてはビックアップ計測を行うなど新たな試みも行われ、選手、監督からも計測の意識の改革がなされたという意見もいただいた。

10月3日。トライアルレース・開始式

この日、午後からトライアルレースが

## 少年男子 セーリングスピリッツ級



1位 佐賀 岡田／宮口



## 少年男子 シーホッパー級スモールリグ



1位 佐賀 樋口碧



## 少年女子 セーリングスピリッツ級



1位 鳥取 平岡／西尾



始まったが、風が弱く不安定な海上気象のため、D旗で出艇コントロールをすることになり、1時間遅れで両海面ともスタートした。

開始式が午後4時30分からハーバー内の大型テントで行われた。

地元蒲郡市の「ちゃらほこ保存会」による太鼓の歓迎セレモニーが行われ、また大塚小学校4年生57名による岐阜国体マスケットキャラクターの「みなもダンス」が披露され、参加者からは盛大な拍手を受けていた。

その後、監督会議が行われた。会議で配布された資料には無駄がなく、また、パワーポイントを使つての映像による説明は非常にわかりやすかつた。本部船に掲示するクラス別コース、コンパス方位、マーク移動の方法についてはパネル化するなど、手順の簡略化が図られていた。また、役員数の削減なども含めて、運営を簡素にしていることがはっきりとわかつた。

### 10月4日。レース1日目

朝から風速5〜8m、風向300度の蒲郡の風が入り、絶好のセーリング・コンディション。予定どおりA海面は成年男子470級、B海面は成年男子国体ウインドサーフィン級がスタートした。

午後も順調にレースは進み、日本体育協会国体委員長の海上視察もあり、成年女子セーリングスピリッツ級のレース観戦をしていた。

SS級のジエネカーアップのスピード感を見張る迫力で、カッ飛ば「じゃじゃ馬」のようにセーリングする姿はまさにハイ・パフォーマンス艇の醍醐味であり、各種目予定どおり各2レース、計20レースを実施することができた。

### 10月5日。レース2日目、珍しい抗議(広告)

この日も朝から風速6〜9m、風向

# 少年女子 シーホッパー級スモールリグ



1位 佐賀 多田緑



290度の風が入り、レースは順調に進み、予定どおり各種目2レース計20レースを実施することができた。2日目にしつて各種目4レース合計40レースを蒲郡の風の中で行うことができ、選手も満足していた。

この日、成年男子470級の選手から「広告」について抗議が出された。

企業名のロゴステッカーがレース中に見えたことに対する抗議だった。レース艇に貼られた企業名はガムテープを貼って隠すように計測時に指摘されているが、レース中に剥がれた状態でレースに参加したことに對する抗議だった。最初に出された結論と適用規則は左記の通り。

◎国際470級はISAFクラスであることから、ISAF規定20・3・2に基づいているため、艇に広告を表示する権利が与えられている帆走指示書の指示2は470級には適用されないことから、抗議は却下された。

しかしその後、プロテスト委員会は重大な誤りを犯したと自ら判断したため、RRS66に基づき審問を再開し、追加の事実を認定し、左記のように結論・適用規則と判決を訂正した。

◎「国民体育大会企業協賛に関するガイドライン」には団体協賛社等以外の広告等の掲出は原則として禁止すると規定されている。

◎このガイドラインに従わなかったことから、ISAF広告規定20・2・4に違反している。

◎帆走指示書指示2に違反している。結果、ペナルティを課せられたが実質的には着順の得点となり、剥がれなように補強し随時確認をする警告としての判決であった。

団体でも、広告について日体協は取り入れる方向ではあるが、現在は大会全体の広告のみしか許されていない。

## 10月6日。レース3日目

この日は風が2m前後と弱く、スタート予定の10時なくても風が吹かない状況が続き、出艇はしたものの両海面とも風が弱く海上待機。

その後、B海面はハーバーに近いことからいったん陸上に帰った。

A海面は徐々に240度の風がそよよと吹き出し、11時55分にスタートをしたがゼネラルリコール、再度1旗適用でスタートしたがゼネラルリコールとなり、今度は黒色旗適用で12時04分にスタートすることができた。

この日は両海面で16レースを予定していたが、風が弱く10レースしか実施することができなかった。

海上運営担当者もレースに最大の努力をしたが、天候だけはどうしようもなく、成年男子470級 シングルハンター級、ウインドサーフィン級、成年女子ウインドサーフィン級、少年男子SS級、SR級6種目は5レース（1レースカット）の実施で終了となった。

## 10月7日。レース4日目（最終日）

4日目はすがすがしい天気でレース日和となり、朝から5m前後の風が吹き、4種目各1レースが予定時刻どおりスタートし、11時過ぎには全レースが終了した。

これで成年女子及び少年女子のSS級、SR級は予定した6レースすべてを実施することができた。

結果、予定していた60レース中、54レースが実施され、風も微風から強風までの「蒲郡の風」が吹き、天候にも恵まれ、素晴らしいレース運営だった。

成績は佐賀県が天皇杯102点で優勝、皇后杯は開催県の岐阜県が54点で優勝した。

今大会は団体の改革、簡素化が試みら

れ、今後団体を開催する県に見本を提示できた大会として評価できる大会であり、岐阜県ヨット連盟、愛知県ヨット連盟の共同による運営資質の高さや気配りが色々な場面で発揮されていた。

ヨットハーバーの芝生広場には、パラスール付きテーパー、椅子を置いたオーブンカフェの休憩施設、クラブハウス2階にはチャイルドルームも用意された。チャイルドルームは今までの団体の中でもっとも利用者が多く、ISAFレディーズ委員会から3名と地元2名のスタッフで対応していた。

「見える団体」として岐阜県の間伐材を利用したベンチを堤防の後ろに置いたが、観戦者からも好評だった。

また、大型テントの休憩所では映像によるレース解説や選手の間接紹介も行われ、B海面のフィニッシュは休憩所からも見える位置にあり、レース解説と映像、直接見えることからセーリング競技を身近に感じてもらった。

10月6日の土曜日にはクルーザー3艇に小学生、保護者を乗せ、海上からのレースを観戦してもらった。トップクラスのセーリングを目の前で見ることができ、子どもたちも喜んでいました。

今大会は全体的にコンパクトにまとめられ、簡素な中にもおもてなしや大会を楽しむ気配りがいくつも準備され、団体のあるべき姿が表現された素晴らしい大会だった。

最後に大会開催にあたり海陽ヨットハーバー、三谷漁業協同組合、大塚小学校、三谷東小学校及び蒲郡市、ボランティア団体など多くの関係者のご支援に感謝を申し上げます。

また、長年にわたり、ご尽力いただいた岐阜県、岐阜県ヨット連盟、愛知県ヨット連盟の皆様へ深くお礼を申し上げます。

